

【 医 学 部 】

第 4 学 年

<生命科学・社会医学系>

基礎上級..... 別 途

<臨床医学系>

臨床薬理学.....4- 1

性差医療.....4- 2

麻酔.....4- 3

腫瘍内科学.....4- 4

医療と法.....4- 5

救急・災害医療.....4- 6

老年医学.....4- 7

臨床遺伝学.....4- 8

<総合教育>

医療入門 I

・症候論とケーススタディ
.....4- 9

・臨床実習入門.....4-10

・医療と社会.....4-11

・プライマリ・ケアと地域医療.....4-12

行動科学Ⅴ（社会的コミュニケーション）.....4-13

男女共同参画.....4-14

医療入門Ⅱ.....4-15

BSL前 漢方実習.....4-16

科目・コース（ユニット）名： 臨床薬理学
英語名称：Clinical Pharmacy

【担当責任者】 鳥羽 衛

【連絡先】 附属病院薬剤部：3073 教官 PHS：6732

【開講年次】 4年, 【学期】 前期 【必修／選択】 必修

【授業形態】 講義

【概要】 医師として疾患に対して薬剤を使用するにあたり、処方せんの書き方をはじめとする必要なスキルに関して講義する。

【学習目標】

- ・ 薬剤師とのコミュニケーションツールとなる処方せんを治療計画に沿って作成できる。
- ・ 薬剤情報の取得に関してその方法を理解する。
- ・ 抗癌剤（注射薬）ミキシングに関して、その注意点を理解する。

【教科書】

- ・ 特に指定しない。講義毎にテキストを配布する。

【参考書】

- ・ 特に指定しない

【成績評価方法】

- ・ 出席に関しては、規定に基づく出席を求める。
- ・ 期末試験を実施し、その結果に基づいて評価する。

【学習上の注意事項】

・ 他の医療従事者、ここでは主に薬剤師とのコミュニケーションツールを理解する講義となります。同じ目線で薬剤と対峙する必要性を理解してください。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2024/5/21	火	4	(講) 処方せんの書き方 1	鳥羽	
2	2024/5/21	火	5	(講) 処方せんの書き方 2	鳥羽	
3	2024/5/28	火	4	(講) 医薬品情報 1	鳥羽	
4	2024/5/28	火	5	(講) 医薬品情報 2	鳥羽	
5	2024/6/4	火	4	(講) 副作用・相互作用	鳥羽	

6	2024/6/4	火	5	(講) TDM	鳥羽	
7	2024/6/11	火	4	(講) 疼痛緩和	鳥羽	
8	2024/6/11	火	5	(講) 抗癌剤	鳥羽	
9	2024/6/12	水	4	(講) 医薬品開発	鳥羽	
10	2024/6/12	水	5	(講) 治験	鳥羽	

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
鳥羽 衛	助教	薬剤部	6732

科目・コース（ユニット）名： 性差医療・医学 4
英語名称： Gender-specific medicine

【担当責任者】小宮 ひろみ

【連絡先】hiromiy@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】前期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】性差医療とは性差とライフステージを意識した医療である。本講義は性差の構築、性差医療の概念・背景と生殖器以外の性差のある疾患また病態に焦点をあて、性差医療の重要性を講義する。さらに性差医療の特徴である Narrative based medicine (NBM) や漢方療法についてその必要性を考える。また、新しい概念である「ジェンダード・イノベーション」について紹介する。

【学習目標】

- 1) 性差を決定する染色体、性ホルモン、内外性器、ジェンダーに関してその特徴を説明できる。
- 2) 性差医療の概念と歴史・背景を説明できる。
- 3) 心疾患、高血圧、脂質異常症、メンタルヘルス、骨粗鬆症の病態における性差の特徴を説明できる。
- 4) 性差医療における NBM と漢方療法の有用性を理解する。

【教科書】指定しない

【参考書】

Principles of gender-specific medicine, Marianne J Legato, Elsevier academic press, USA

性差医学入門 女と男のよりよい健康のために 監修 貴邑富久子 じほう

性差医療 性差医学が医療を変える 編集 天野恵子 (真興交易出版部)

【成績評価方法】

講義内容における知識が身についたかを確認するため期末試験（筆記試験）を行う。また、提示した課題に関して自分で調べたことをまとめたレポートを提出してもらう。成績は期末試験（筆記試験）とレポート両方で評価を行う。出席については、講義において、原則として3分の2以上出席が必要である。

【学習上の注意事項】

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2024/5/21	火	6	(講) 性差医療の概念・歴史・背景	小宮ひろみ	
2	2024/5/28	火	6	(講) 性差の構築① (臨床医学的観点から)	小宮ひろみ	
3	2024/6/ 4	火	6	(講) 性差の構築② (基礎医学的観点から)	諸橋憲一郎 小宮ひろみ	
4	2024/6/11	火	6	(講) 男性側からみた性差医療	小川総一郎 小宮ひろみ	
5	2024/6/14	金	6	(講) 骨粗鬆症と性差	小宮ひろみ	
6	2024/6/21	金	6	(講) 高血圧・脂質異常症と性差	天野恵子 小宮ひろみ	
7	2024/6/28	金	6	(講) 心疾患と性差	嘉川亜希子 小宮ひろみ	
8	2024/7/ 5	金	6	(講) メンタルヘルスと性差	丹羽真一 小宮ひろみ	
9	2024/7/12	金	6	(講) Narrative based medicine 女性外来と漢方療法について	小宮ひろみ	

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
小宮ひろみ	教授	福島県立医科大学 産科婦人科学講座	
諸橋憲一郎	客員教授	久留米大学医学部 (九州大学名誉教授)	
小川総一郎	准教授	福島県立医科大学泌尿器科学講座	
嘉川亜希子	内科部長	鹿児島大学 上山病院	
天野恵子	特別顧問	静風荘病院	
丹羽真一	特任教授	会津医療センター心身医療科	

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

科目・コース（ユニット）名： 麻酔
英語名称： Anesthesiology

【担当責任者】 井上聡己、【分野担当責任者】 黒澤伸、小原伸樹、佐藤薫、箱崎貴大

【連絡先】 麻酔科学講座 内線 2464、masui@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年、【学期】 前期【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義

【概要】 麻酔科学は、麻酔、集中治療（救急医療）、ペインクリニック、ならびに緩和医療など幅広い知識と技術が要求される広範囲の診療分野を扱う。したがって、上記の一見かけ離れた診療分野の疾病に共通する臓器・組織機能の恒常性の破綻と痛みの病態生理を理解し、その上でこれらに対処する手法を学ぶ。

【学習目標】

1. 全身麻酔法および麻酔器の構造について基本的な説明ができる。
2. 吸入麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
3. 静脈麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
4. 筋弛緩薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
5. 麻薬、鎮痛薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
6. 局所麻酔薬の薬理作用について基本的な説明ができる。
7. 各種神経ブロック法、硬膜外麻酔法、脊髄くも膜下麻酔法について基本的な説明ができる。
8. 各種痛み疾患および術後痛の発生機序と鎮痛法について基本的な説明ができる。
9. 麻酔・手術に伴う生理的変化（神経、呼吸、循環、内分泌、代謝、体液など）について基本的な説明ができる。
10. 呼吸器、循環器、内分泌・代謝疾患、神経筋疾患などの患者の麻酔・集中治療について基本的な説明ができる。
11. 小児および妊産婦の麻酔について基本的な説明ができる。

【教科書】

標準麻酔科学（2017）稲田 英一 / 森崎 浩 / 西脇 公俊編 医学書院

【参考書】

1. 麻酔ポケットマニュアル（2016）中尾慎一編、中山書店
2. Basics of Anesthesia, 7th ed (2018) Pardo MC & Miller RD 編 Elsevier

【成績評価方法】

原則として 3 分の 2 以上の出席と筆記試験により総合的に評価される。

【学習上の注意事項】

1. 講義中は静粛にし医学生たる態度で真摯に講義を聴講すること。
2. 講義では重点的なことを取り上げ、不足分は自学・自習を原則とする
3. 学習者が主体的な思考に基づき知識・技術を習得することを原則とする。

【垂直的統合授業の実施内容】

特に設けていない

【水平的統合授業の実施内容】

特に設けていない

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

一部の分野において外部講師を招き最新の医療情報について講義していただく。特に小児麻酔分野とペインクリニック分野。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2024/5/20	月	4	(講) 吸入麻酔薬	黒澤 伸
2	2024/5/20	月	5	(講) 麻酔と呼吸・呼吸器外科の麻酔	黒澤 伸
3	2024/5/20	月	6	(講) 呼吸と内分泌・内分泌疾患の麻酔	黒澤 伸
4	2024/5/24	金	2	(講) 麻薬・鎮痛薬	井上 聡己
5	2024/5/24	金	3	(講) 麻酔と脳神経・脳神経外科の麻酔	井上 聡己
6	2024/5/27	月	4	(講) 麻酔器・麻酔と安全管理	井上 聡己
7	2024/5/27	月	5	(講) 局所麻酔薬・神経ブロック	中野 裕子
8	2024/5/27	月	6	(講) ペインクリニック	中野 裕子
9	2024/5/31	金	2	(講) 筋弛緩薬・神経筋疾患の麻酔	井上 聡己
10	2024/5/31	金	3	(講) 小児麻酔	鈴木 康之
11	2024/6/3	月	4	(講) 全身麻酔の臨床薬理	小原 伸樹
12	2024/6/3	月	5	(講) 静脈麻酔薬	小原 伸樹
13	2024/6/3	月	6	(講) 麻酔と循環・心臓血管外科の麻酔	小原 伸樹
14	2024/6/7	金	1	(講) 気道確保	箱崎 貴大
15	2024/6/7	金	2	(講) 集中治療医学概論	箱崎 貴大
16	2024/6/7	金	3	(講) 酸素療法・人工呼吸法	箱崎 貴大
17	2024/6/10	月	4	(講) 輸液・消化器疾患の麻酔	黒澤 伸
18	2024/6/10	月	5	(講) 硬膜外・脊髄くも膜下麻酔、産科麻酔	大石理恵子
19	2024/6/10	月	6	(講) 術後痛とその対策	大石理恵子

【担当教員】

教員氏名	職	所属
井上 聡己	主任教授	麻酔科学講座
黒澤 伸	教授	麻酔科学講座
小原 伸樹	准教授	手術部
佐藤 薫	講師	麻酔科学講座
箱崎 貴大	講師	集中治療部
中野 裕子	助教	麻酔科学講座
大石理恵子	助手	麻酔科学講座
鈴木 康之	統括部長	国立成育医療センター 手術集中治療部

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

すべてが該当

科目・コース（ユニット）名：腫瘍内科学【医学4】

英語名称：Medical Oncology

【担当責任者】佐治重衡

【開講年次】4年, 【学期】前期, 【必修／選択】必須, 【授業形態】講義

【概要】日本の死因の第1位はがんであり、その多くの患者さんに薬物療法を用いた治療が必要となる。これまでがん薬物療法は各臓器別に行われてきたが、がん薬物療法を臓器横断的に行うことができる腫瘍内科の重要性が認識されてきたことから、当科ではがんの病態を理解し、がんに対する薬物療法を中心としたさまざまな治療やケアを学ぶことを目標とする。

【学習目標】

1. がん薬物療法に用いられる薬剤の作用機序、薬剤の副作用、治療適応を決定するために必要な検査について理解できる。また、がんの成り立ちや、臨床試験について説明することができる。
2. 薬剤による治療の有害事象とその評価方法 (CTCAE など)、対処法が理解できる。
3. 腫瘍内科で治療を行っている代表的な癌腫における治療戦略について説明できる。
4. がん患者による講義を通して、身体的・精神的・社会的苦痛に共感することができる。

【教科書】特に指定しない。授業開始前までにあらかじめ配布する講義資料を準備して、授業に参加すること。

* 『医学教育モデルコアカリキュラム E-3 腫瘍』は事前に読んでおくこと。
https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2017/06/28/1383961_01.pdf

【参考書】 入門腫瘍内科学 南江堂
がん診療レジデントマニュアル 医学書院
がんがみえる メディックメディア

【成績評価方法】出席日数は総授業数の2/3以上の出席を必要とする。
成績は筆記試験・出席日数により総合的に評価する。

【学習上の注意事項】 わからないことは積極的に質問し、能動的に講義に臨むこと。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

当科では多くの国際共同臨床試験や医師主導臨床試験に参加していることもあり、第1回, 第7回の授業においてエビデンスのとらえ方、治療効果判定法、有害事象の評価法、統

計学的な解釈、臨床試験の開発法に加え、がん診療の臨床における最新の知見も含めた授業を行う。さらに今後医師として臨床試験・治験などにおける中心的な役割者として参加できるような内容を指導する。

また、第2回の特別授業においては、がん治療を経験された患者さんを講師にむかえることで、がん患者の言葉に直接触れることのできる授業を行う。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2024/5/22	水	4	(講) 総論 がん薬物療法	佐治重衡
2	2024/5/22	水	5	(講) 特別 がん患者さんからのメッセージ	鈴木牧子 佐治重衡
3	2024/5/22	水	6	(講) 各論 がんの症状緩和	名取 穰
4	2023/5/29	水	4	(講) 各論 がん薬物治療各論	佐々木栄作
5	2023/5/29	水	5	(講) 各論 造血器腫瘍の考え方	野地秀義
6	2023/6/5	水	4	(講) 各論 腫瘍と遺伝	徳田恵美
7	2023/6/5	水	5	(講) 各論 がんの臨床試験について	木村礼子

【担当教員】 連絡先：腫瘍内科医局

教員氏名	職	所属
佐治重衡	教授	腫瘍内科学講座
徳田恵美	講師	腫瘍内科学講座
木村礼子	助教	腫瘍内科学講座/ 臨床腫瘍センター
名取 穰	助教	腫瘍内科学講座
鈴木牧子	非常勤講師	「ひいらぎの会」代表世話人
野地秀義	臨床教授・病院長	腫瘍内科学講座・福島南循環器科病院
佐々木栄作	臨床教授	腫瘍内科学講座/ 千葉西総合病院

【医師として実務経験のある教員による授業科目】 総論、各論講義

科目・コース（ユニット）名：医療と法

英語名称：Medical Law

【担当責任者】藤野美都子

【連絡先】mfujino@fmu.ac.jp

【開講年次】4年, 【学期】前期, 【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

医事法学とは、医療取り巻く様々な法的問題を対象とし、これを考察する学問である。人の生命・健康に直接関わる医療に対しては、様々な観点から法的な規制が加えられている。適切な医療を確保するために、医療関係者と医療施設について法的規制が行なわれている。さらに、すべての人に医療が行き渡るように医療保険制度が整備されている。授業では、まず、医療をめぐる法制度について概説する。次に、医療事故をめぐる諸問題について、具体的事例に即して検討する。

【学習目標】

- 1) 患者の権利の内容と、患者の権利を保障する意義について説明できる。
- 2) インフォームド・コンセントの定義とその意義について説明できる。
- 3) 医療関係者・医療施設に関する法的規制について説明できる。
- 4) 医師の公法上の義務と契約上の義務について説明できる。
- 5) 医療過誤における医師の法的責任について説明できる。
- 6) 医療保険制度について説明できる。
- 7) 患者の権利を保障する医療について、自ら考えることができる。

【教科書】手嶋豊『医事法入門（第6版）』有斐閣・2022年

【参考書】『医事法判例百選（第2版）』（有斐閣・2014年）

【成績評価方法】

- ・ 授業への参画態度（50点）+課題（50点）
授業参画態度は、毎時間の質問・意見表明、提出するコメントにより評価する。
授業終了後に、医療過誤に関する判決を読む課題（50点）を課す。
- ・ 規程に基づき、3分の2以上の出席者を評価対象とする。

【学習上の注意事項】

受講生が「自ら考える」ことを基本とし、授業時間内に受講生による意見交換の場を設けるので、授業への積極的な参画を求めます。また、医事法を学ぶ上で、医療を取り巻く

社会状況に関する理解は不可欠です。様々なメディアを通じて情報を収集し、今日の社会状況に関する理解を深めることを期待します。

【垂直的統合授業の実施内容】

3年次開講の医療情報学の知識を前提に、保険診療が直面する法的課題、診療情報の保護等について学ぶ。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	24/6/25	火	2	(講) 講義案内・医事法入門：医療行為の正当性	藤野
2	24/6/25	火	3	(講) 患者の権利：医療の主体としての患者・患者の権利に関するリスボン宣言	藤野
3	24/7/2	火	2	(講) インフォームド・コンセント：ICをめぐる判例の動向・オンライン診療・AI活用診療をめぐる法的問題点	藤野
4	24/7/2	火	3	(講) 医療関係者の法規制：医師法、保健師助産師看護師法など	藤野
5	24/7/9	火	2	(講) 医療施設の法規制：医療法など	藤野
6	24/7/9	火	3	(講) 医療安全に関する法規制：医療法	藤野
7	24/7/10	水	4	(講) 医師の権利・義務：公法上の義務・契約上の義務	藤野
8	24/7/10	水	5	(講) 終末期医療をめぐる法	藤野
9	24/7/16	火	2	(講) 医療過誤①：医療過誤における医師の法的責任	藤野
10	24/7/16	火	3	(講) 医療過誤②：医療過誤における医師の法的責任	藤野
11	24/7/23	火	2	(講) 医療保険制度：混合診療の法的問題	藤野
12	24/7/23	火	3	(講) 診療情報の保護：診療情報の利用と個人情報の保護	藤野

【担当教員】

教員氏名	職	所属
藤野美都子	非常勤講師	人間科学講座（生命倫理学分野）

科目・コース（ユニット）名：救急・災害医療
英語名称：Emergency and Disaster Medicine

【担当責任者】伊関 憲、小野寺誠、塚田泰彦

【連絡先】

救急科医局：024-547-1581（内 2185）

メールアドレス：qq99@fmu.ac.jp

【開講年次】3、4年，【学期】前期，【必修／選択】必修，

【授業形態】講義

【概要】救急医療は医療の原点であり、全ての医師が現場での的確な診断、治療が要求される。救急医学の講義では生体侵襲に対する対応を理解し、呼吸・循環・意識障害ならびに外傷、中毒、熱傷などについて迅速な診断・治療方針を含めた初期治療を学習する。

さらに、ドクターヘリやドクターカーを用いた病院前救護体制や災害医療体制についても理解する。本講義は3年前期に救急総論を講義して、4年前期に救急の各論を講義する。

【学習目標】

1. 救急医療システムについて概説できる。
2. 救急患者の緊急度、重症度を説明できる。
3. 呼吸不全、循環不全、意識障害の病態、診断、治療を説明できる。
4. 熱傷、外傷、急性中毒、環境異常（熱中症など）の病態、診断、治療法を説明できる。
5. 特殊感染症の病態、診断、治療法を説明できる。
6. 心停止の診断および蘇生法をEBMに基づいて学習し、Basic Life Support (BLS)とAdvanced Cardiovascular Life Support (ACLS)について説明できる。
7. 緊急性の高い疾患の画像検査を列挙しその適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。
8. 災害医療の基礎およびその特殊性を理解できる。

【教科書】

日本救急医学会監修：救急診療指針改訂第6版（へるす出版）（令和6年3月発売予定）

【参考書】

改訂外傷初期診療ガイドライン（へるす出版）

AHA 心肺蘇生と救急心血管治療のためのガイドライン2020

DMAT 標準テキスト（へるす出版）

【成績評価方法】

出席日数（2/3以上の出席が必要）、筆記試験等により総合的に判定される。3年次に行う救急総論の講義は4年次に各論と併せて筆記試験を行う。

【学習上の注意事項】

- ・指定した教科書を事前に学習し、講義に持参すること。講義でコアカリキュラムに含まれるすべての内容を網羅することはできないため指定された教科書を用いて自学自習すること。
- ・その他（メッセージ等）：筆記試験で再試になったものに対しては、指定された教科書を購入した学生を対象として行う。

【垂直的統合授業の実施内容】

2年次に学習した解剖学・生理学・病理学・薬理学など基礎医学で学習した内容が、救急医学の講義で臨床的な内容として学習する。また、1年次の人体機能学概論における心肺蘇生実習で行った内容を講義でその理論を学習する。

【水平的統合授業の実施内容】

循環器内科や呼吸器内科など内科系や、外科、整形外科、脳神経外科などの外科系の講義を統合して救急医学の講義を理解する必要がある。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

福島県では東日本大震災を経験し、特色のある救急・災害医療を展開している。また、本学附属病院には、ドクターヘリが東北で最も早く導入された。これらについても解説を行う。救急医として日本を代表する診療を行っている非常勤講師による特別講義

【授業スケジュール】（例）

回数	年/月/日	曜日	時限	内容	担当教員名	救急診療指針第6版
3年						
1	4月10日	水	2	救急疾患の診察・鑑別	伊関 憲	4章
2	4月10日	水	3	意識障害	伊関 憲	4章
3	4月17日	水	1	呼吸不全	反町 光太郎	4章
4	4月17日	水	2	循環不全・ショック1	反町 光太郎	4章
5	4月17日	水	3	循環不全・ショック2	反町 光太郎	4章
4年						
6	5月23日	木	4	救急医療システム	伊関 憲	2章
7	5月23日	木	5	腹部救急疾患	小野寺誠	5章5, 6
8	5月24日	金	4	環境異常（熱中症など）	鈴木 剛	5章21

9	5月24日	金	5	熱傷・電撃傷	鈴木 剛	5章19
10	5月24日	金	6	重症特殊感染症	佐藤 ルブナ	5章17
11	5月30日	木	4	外傷総論	菅谷一樹	5章18
12	5月30日	木	5	外傷各論	菅谷一樹	5章18
13	5月31日	金	4	人工呼吸と血液浄化法	岩淵 雅洋	8章
14	5月31日	金	5	災害医療総論	塚田 泰彦	9章
15	5月31日	金	6	災害医療各論	塚田 泰彦	9章
16	6月6日	木	4	中毒 I	伊関 憲	5章20
17	6月6日	木	5	中毒 II	伊関 憲	5章20
18	6月13日	木	4	BLS	伊関 憲	3章
19	6月13日	木	5	ACLS	伊関 憲	3章
20	6月13日	木	6	蘇生	伊関 憲	3章

【担当教員】

教員氏名	職	所属
伊関 憲	教授	救急医療学講座
小野寺 誠	教授	地域救急医療支援講座
塚田 泰彦	学内講師	救急医療学講座
岩淵 雅洋	助教	救急医療学講座
鈴木 剛	助手	救急医療学講座
反町 光太郎	助手	救急医療学講座
菅谷一樹	助手	救急医療学講座
佐藤ルブナ	非常勤講師	東京医科歯科大学病院感染制御部

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

救急医療の医師として実務経験のある教官が実施する。

科目・コース（ユニット）名： 老年医学

英語名称： Geriatric medicine

【担当責任者】 濱口杉大、大平弘正

【連絡先】 総合内科(内線：3264) 024-547-1933/fmu-gim@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年【学期】 前期【必修／選択】 必須

【授業形態】 講義

【概要】 超高齢社会をむかえ、将来進む専門分野を問わず、直接的あるいは間接的に高齢者の医療と関わる機会はますます増えている。これまで生物学的寿命を延ばしたり、疾病を取り除いたりする医療が求められてきたが、死が回避できない人間のイベントであるため、高齢者は「いかに長生きするか」よりも「いかに死ぬか」を考えなければならず、身体的寿命でなく健康寿命の注目すべきときが来ている。同時に複数疾患をもち、症候が非典型となりやすい高齢者の臨床医学は、最先端医学では解決できない部分が多く、そのマネジメントは質が高く応用の広い臨床力と科学を越えた哲学、社会学、心理学など様々な学問の統合をもって行われる高度な作業であり、医師としての総合能力が問われる。

その基礎的知識を学習することは今後医師を目指すものにとって必須でありかつ貴重なことである。

【学習目標】

G10

超高齢社会で適切な医療をおこなうために、老年医学に対する基本的な知識を身に着ける。

SB0

老年症候群と高齢者総合機能評価（comprehensive geriatric assessment: GCA）の概要を述べることができる

フレイル・サルコペニアに対するリハビリテーションの重要性を述べることができる

ポリファーマシーへの対応を述べることができる

骨粗鬆症と骨折の予防について述べることができる。

ロコモティブ症候群の概要を述べることができる

認知機能低下と認知症の概要を述べることできる

高齢者の栄養管理のポイントを列挙できる

高齢者救急の問題点を述べることができる

高齢者の緩和ケア（腫瘍、非腫瘍）の特徴を述べることができる

高齢者の泌尿器科的問題の概要を述べることができる

高齢者の高血圧・脂質異常・糖尿病の管理の概要を述べることができる

多職種カンファレンスのマネジメントのやり方を述べることできる

地域包括ケア・在宅医療の実践の概要を述べることができる

終末期医療とアドバンスケアプランニングの重要性を列挙できる

【教科書】 老年医学系統講義テキスト 日本老年医学会

【参考書】 高齢者診療のトピック (日本内科学会雑誌 107 巻 12 号)

【成績評価方法】

- ①2/3 以上 (10 回以上) の講義の出席を要する
- ②多選択肢問題の試験をおこない 60 点以上を合格とする。不合格の場合は再試験をおこない、60 点以上を再試験合格とする。
- ①を達成しない場合、②の試験の点数にかかわらず不合格とする。
- 総合成績は出席数と試験の点数により決定する。
- 病気・負傷等による欠席については授業前に教務に連絡をする (やむを得ない場合を除き、事前の連絡がない場合は欠席とみなす)

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内容	担当教員名
1	2024/7/9	火	4	老年医学総論	濱口 杉大
2	2024/7/9	火	5	終末期医療とアドバンスケアプランニング	宮下 淳
3	2024/7/9	火	6	高齢者の緩和ケア (腫瘍、非腫瘍)	佐藤 薫
4	2024/7/16	火	4	骨粗鬆症と骨折	風間 順一郎
5	2024/7/16	火	5	高齢者の泌尿器科的問題	小島 祥敬
6	2024/7/16	火	6	フレイル・サルコペニアとリハビリテーション	大内 一夫
7	2024/7/17	水	4	多職種カンファレンスのマネージメント	中村 光輝
8	2024/7/17	水	5	地域包括ケア・在宅医療の実践	中村 光輝
9	2024/7/17	水	6	認知機能低下と認知症	後藤 大介
10	2024/7/23	火	4	高齢者の栄養管理	大平 弘正
11	2024/7/23	火	5	ロコモティブ症候群	松本 嘉寛
12	2024/7/23	火	6	ポリファーマシー	黒田 純子
13	2024/7/24	水	4	高齢者の高血圧・脂質異常・糖尿病の管理	島袋 充生
14	2024/7/24	水	5	老年症候群と高齢者総合機能評価	菅家 智史
15	2024/7/24	水	6	高齢者救急	鈴木 剛

【担当教員】（授業のスケジュール順に記載いたしております）

教員氏名	職	所属
濱口 杉大	教授	総合内科
宮下 淳	教授	白河総合診療アカデミー
佐藤 薫	講師	麻酔科学講座
風間 順一郎	教授	腎臓高血圧内科学講座
小島 祥敬	教授	泌尿器科学講座
大内 一夫	准教授	リハビリテーション医学講座
中村 光輝	助教	地域・家庭医療学講座
後藤 大介	博士研究員	神経精神医学講座
大平 弘正	教授	消化器内科学講座
松本 嘉寛	教授	整形外科学講座
黒田 純子	薬剤部長	薬剤部
島袋 充生	教授	糖尿病内分泌代謝内科学講座
菅家 智史	講師	地域・家庭医療学講座
鈴木 剛	助手	救急医療学講座

科目・コース（ユニット）名： 臨床遺伝学
英語名称：Clinical genetics

【担当責任者】 門馬智之（遺伝診療部 部長、消化管外科学講座 准教授）

【連絡先】 消化管外科学講座・医局：024-547-1259 内線：2342, E-mail:tmomma@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年【学期】前期・後期(?)【必修／選択】必須

【授業形態】講義／演習／実習

【概要】臨床遺伝学とは、細胞生物学、分子生物学、遺伝子情報の解析技術といった基礎的な遺伝医学の理論や技法を、遺伝性疾患の診断・治療・予防など臨床へ応用する学問領域である。講義で遺伝性疾患について学び、実習で遺伝カウンセリングの体験とレポートの作成を行う。

【学習目標】

一般目標

1. 遺伝学の基礎と臨床に関する十分な素養を備え、ゲノムの多様性に基づく個体の多様性、遺伝子変異・染色体異常と疾患の発生との関連を理解する
2. 遺伝カウンセリングの実習を通じて、臨床における遺伝医療の実践を体験する。

行動目標

1. 遺伝医療を理解し説明できる。
2. 家系図を理解し作成できる。
3. 染色体異常について理解し説明できる。
4. 出生前診断について理解し説明できる。
5. Mendel (メンデル) 遺伝の様式を説明でき、代表的な遺伝性疾患を列挙できる。
6. 非メンデル遺伝の形式をとる主な疾患について、その機序を概説できる。
7. 多因子遺伝による疾患・体質を列挙し、その特徴を理解できる。
8. 遺伝医療における倫理的配慮と遺伝カウンセリングについて理解し実践できる

【教科書】

1. トンプソン&トンプソン遺伝医学 第2版 メディカルサイエンスインターナショナル 11,000円
2. 新遺伝医学やさしい系統講義 19講 メディカルサイエンスインターナショナル 5,060円

【参考書】

1. 遺伝医学への招待改訂第6版 南光堂 2,200円
2. コルフ臨床遺伝医学 原書4版 丸善出版 7,700円
3. 診療・研究にダイレクトにつながる 遺伝医学 羊土社 4,730円

【成績評価方法】

- 第4学年次前期末(定期試験、○×問題 100 題)
- 出席については、規定に基づき原則として、講義あるいは演習は2 / 3 以上の出席を要する。

【学習上の注意事項】

- 1 時限の講義で解説される内容は膨大であり、各自知識の整理は自主的に行う必要がある。
- 講義はプリントおよびスライドを主に用いて行われるが、不明な点は講義の中での質問などにより明らかにしておく必要がある。
- 講義への積極的な出席を期待する。
- 遺伝カウンセリングの体験は、ロールプレイ形式で行う。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

- ロールプレイ形式による遺伝カウンセリングの演習を行う。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2024/6/14	金	1	(講) 遺伝医療総論、家系図作成	門馬智之	
2	2024/6/21	金	1	(講) 染色体異常と出生前診断	門馬智之	
3	2024/6/28	金	1	(講) メンデル遺伝と単一遺伝子疾患	門馬智之	
4	2024/7/5	金	1	(講) 非メンデル遺伝と多因子遺伝病	門馬智之	
5	2024/7/12	金	1	(講) 遺伝医療における倫理的配慮と遺伝カウンセリング	門馬智之	
6	2024/7/12	金	2	(講) 遺伝カウンセリングの演習	門馬智之他	
7	2024/7/12	金	3	(講) 遺伝カウンセリングの演習	門馬智之他	

【担当教員】

教員氏名	職	所属
門馬智之	准教授	消化管外科学講座
佐藤真紀	講師	小児科学講座
郷勇人	准教授	小児科学講座
岡野舞子	講師	乳腺外科学講座
福田冬馬	助手	産科婦人科学講座
大越千弘	助手	産科婦人科学講座

科目・コース（ユニット）名： 症候論とケーススタディ
英語名称：Clinical Reasoning & Case Study

【担当責任者】 島袋充生（糖尿病内分泌代謝内科学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）

【連絡先】 igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】 前期, 【必修／選択】 必須,

【授業形態】 講義・演習（TBL）

【概要】

職業訓練と位置付けられるこのユニットは、(1) 症候論、(2) 多職種連携授業、(3) 痛みから成る。

(1) これまでは病気について「疾患名→病態→症状・身体所見・検査所見」の流れで学習してきた。しかし、臨床現場では、患者さんが訴える症状（symptom）から疾患を想起し、病歴や観察した兆候（sign）を基に疾患の同定（診断 diagnosis）を行う思考が必要になる。症候論ではコア・カリキュラムであげられている主要 37 症候について、診断を確定させるまでの論理的アプローチ法を修得する。尚、一部の授業を、グループワークを基盤とする TBL (team-based learning) で行う。グループメンバーと協働しながら、チーム医療に必要な責任ある態度を身に付けて欲しい。

(2) 患者さんの診療においては、医学的な根拠だけでなく患者さんの社会的・心理的背景と生活環境を踏まえた包括的なケアが必要となる。これは、医療に従事する多種多様な専門職が、目的と情報を共有し、それぞれの専門的観点から連携・補完し合って初めて実現できる。多職種連携授業では、看護学部 4 年生と保健科学部 4 年生と合同でケーススタディを行い、お互いの役割に関する理解を深め、提供すべき包括的ケアプランを立てる。

(3) 症候の中には、様々な部位・疾患で起きる痛みが含まれる。痛みの発生メカニズムや慢性化のメカニズム、そして痛みに対する治療、特に慢性化した痛みに対する多職種による集学的アプローチについても学習する。

【学習目標】

(1) 症候論

1. 主訴・症状から可能性のある疾患を想起できる
2. 経過を基に、想起した疾患の重みづけ（頻度、重症度、緊急度）ができる
3. 必要な身体診察項目を挙げるができる
4. 身体所見を解釈できる
5. 診断に必要な検査を、優先順位を考慮してあげることができる
6. 検査所見を解釈できる
7. 得られた情報から考えられる診断を、要約してプレゼンテーションできる
8. ルールを順守し、課題解決に向けてチームに貢献できる

(2) 多職種連携授業

1. 他の医療専門職の役割を説明できる。
2. 他職種とお互いの知識、情報を交換して、患者の社会的・心理的背景や生活環境を踏まえた最良のケアプランを立てることができる。

(3) 痛み

1. 痛みを分類することができる。
2. 主観的な症状である痛みをどのように評価するかを説明できる。
3. 痛み、特に慢性痛に対する治療について説明できる。

【教科書】 指定しない。

【参考書】

- ・「誰も教えてくれなかった診断学—患者の言葉から診断仮説をどう作るか」野口善令、福原俊一 著 医学書院
- ・「内科診断学」福井次矢、奈良信雄 編集 医学書院
- ・「内科学」矢崎義雄 総編集 朝倉書店
- ・「ハリソン内科学」福井次矢、黒川清 監修 メディカル・サイエンス・インターナショナル

【成績評価方法】

履修規定に基づき、2/3以上の授業への出席を以て評価の対象とする。

評価は、①授業態度、②授業時間内の課題と試験（TBLのIRAT、GRAT、確認テストを含む）③提出物（期限内の提出の有無と内容）を基に総合的に判断する。

【学習上の注意事項】

TBL、多職種連携授業は、事前学習を前提とする。事前学習課題は授業の約1週間前に開示する。

【水平的統合授業の実施内容】「症候論」は、疾患ごとに修得した知識を横断的に駆使しなければならない点で統合的内容である。「多職種連携授業」では、担当する症例に必要なあらゆる分野の知識が必要になる。「痛み」については、整形外科、神経精神科、麻酔科の視点から概観する。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】症候論の一部は、アクティブラーニングの理論に基づき、team-based learning (TBL)の形式で行う。

【授業スケジュール】

授業スケジュールおよび担当者の詳細は、令和4年4月以降に別途通知する。

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容		担当教員名
1	2024/5/13	月	1	(講)	TBL ガイダンス	医療人育成・支援センター
2	2024/5/20	月	1-3	(TBL)	【講義】 ・カルテの書き方 ・鑑別のための問診 ・症候論 腹痛 咳嗽 ショック 全身倦怠感 視覚異常 けいれん 尿量/排尿異常 胸痛 脱水/浮腫 歩行障害/感覚障害 腹部膨隆/腫瘍 黄疸 月経異常 関節痛/関節腫脹 運動麻痺/筋力低下 発疹 吐血/下血 頭痛 血尿と蛋白尿 不安と抑うつ 物忘れ/認知症 リハビリテーション 【TBL】 ・症候論（リンパ節腫脹、 体重減少、血尿、意識障害、呼吸困難、動	菅家智史 濱口杉大
3	2024/5/22	水	1	(講)		
4	2024/5/22	水	2-3	(TBL)		
5	2024/5/27	月	1	(講)		
6	2024/5/27	月	2-3	(TBL)		
7	2024/5/29	水	1	(講)		
8	2024/5/29	水	2-3	(TBL)		
9	2024/6/3	月	1	(講)		
10	2024/6/3	月	2-3	(TBL)		
11	2024/6/5	水	1	(講)		
12	2024/6/5	水	2-3	(TBL)		
13	2024/6/10	月	1	(講)		
14	2024/6/10	月	2-3	(TBL)		
15	2024/6/12	水	1	(講)		
16	2024/6/12	水	2-3	(TBL)		
17	2024/6/24	月	1-3	(TBL)		
18	2024/6/26	水	1	(講)		
19	2024/6/26	水	2-3	(TBL)		
20	2024/7/1	月	1	(講)		
21	2024/7/1	月	2-3	(TBL)		
22	2024/7/3	水	1	(講)		
23	2024/7/3	水	2-3	(TBL)		
24	2024/7/8	月	1	(講)		
25	2024/7/8	月	2-3	(TBL)		
26	2024/7/10	水	1	(講)		
27	2024/7/10	水	2-3	(TBL)		
28	2024/7/17	水	1	(講)		
29	2024/7/17	水	2-3	(TBL)		
30	2024/7/24	水	1-3	(TBL)		

症候論講義：
各臨床講座

症候論 TBL
医療人育成・支援センター
各臨床講座

31	2024/9/11	水	1	(講)	悸、めまい、嘔気、腰 背部痛、発熱)	
32- 34	2024/9/11	水	2-4	(講) 痛み		矢吹省司 三浦至
35	2024/9/17	火	1-2	(講) 痛み		二階堂琢也 高橋直人
36- 39	2024/9/17	火	3-6	(講) 症候論		症候論講義： 各臨床講座
40	2024/9/18	水	1	(講) 症候論		
41	2024/9/18	水	4	(講) 症候論		
42	2024/9/18	水	5-6	(演) 多職種連携事前学習		医療人育成・支 援センター・ 医学部教員
43	2024/9/24	月	1-6	(演) 三学部合同多職種連携		医療人育成・支 援センター・医 学部・看護学 部・保健科学部 教員
44	2024/9/27	金	2-3	(講) 症候論		

【担当教員】

令和4年4月以降に別途通知する。

科目・コース（ユニット）名：臨床実習入門
英語名称：Introduction to medical training

【担当責任者】木村隆（外科研修支援担当）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）、
濱口杉大（附属病院総合内科）

【連絡先】igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】4年，【学期】前期，【必修／選択】必須，

【授業形態】講義・実習

【概要】診療参加型臨床実習に必要とされる臨床技能の修得を確実にするための学習ユニットである。Student doctor として参加型臨床実習を行うためには、このコースで学ぶ全ての臨床スキル（手技・面接技術・態度）を身に付けていなければならない。しかし、臨床スキルを修得する上で最も重要なことは、何のためにその操作をその手順で行うのか、理論的背景を理解していることである。

【学習目標】

診療参加型臨床実習を行うにあたって必要とされる臨床技能を、それぞれの目的・意味を理解した上で実践できる。

1. 診断のための適切な医療面接が日本語でできる。
2. 全身（頭頸部、胸部、腹部、四肢・脊柱、神経系、バイタルサイン、直腸、乳房）の系統的な診察ができる。
3. 基本的な救命救急処置ができる。
4. 基本的臨床手技（採血、心電計装着、持続的導尿）を行える。
5. 基本的処置とそのための清潔操作ができる。
6. 英語による初診患者の医療面接ができる。

【教科書】

1. 「臨床実習開始前の共用試験」第8版 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構（CATO）—配布予定
2. 診療参加型臨床実習および臨床実習開始時に必要とされる技能と態度（教育・学習用 DVD）URL—別途配布予定の「UMIN ID」を用いてアクセス可能
3. 「診察と手技がみえる Vol.1」古谷伸之編集 MEDIC MEDIA—要購入（医療人育成・支援センターから貸し出し可能4冊まで）

【参考書】

「OSCE/Post-CC OSCE に役立つ医学生のための基本的臨床手技」車谷典男、古家仁監修 診断と治療社

【成績評価方法】

- ・履修規定に則り、5分の4以上の授業への出席を以て評価の対象とする
- ・出席率と授業態度（使用物品の取り扱い・時間・身だしなみ・ルールの遵守、提出物を含む）を評価する。なお、英語による医療面接」の concept map の提出は、単位認定の必須事項である。

【学習上の注意事項】

別途配布予定の「UMIN ID」を用いてアクセス可能な、診療参加型臨床実習および臨床実習開始時に必要とされる技能と態度（教育・学習用DVD）を必ず視聴し、授業には、予め教科書1, 2の該当部分を読んでから臨むこと

やむを得ない理由で欠席する場合には、予め大学に連絡すること。

【授業スケジュール】

2024年2月の段階での予定を示す。

班編成、実習場所、担当教員を含めた詳細は、令和6年4月以降に別途通知する。配布資料には必ず授業前に目を通すこと。

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当講座
1	2024/6/24	月	4-5	(講) 医療面接	小児科学講座
2	2024/6/24	月	6	(講・演) 消毒と滅菌	手術部
3①	2024/6/25	火	4-6	(実) 心電図装着①	循環器内科学講座
4	2024/6/27	木	4-6	(実) 直腸診	消化管外科学部門
3②	2024/6/27	木	1-3	(実) 心電計装着②	循環器内科学講座
5	2024/7/1	月	4-6	(実) 医療面接実習①	医療人育成・支援センター 小児科学講座・その他
	2024/7/2	火	4-6	(実) 医療面接実習②	
6	2024/7/4	木	1-3	(講・実) 乳房診察	乳腺外科学部門
7	2024/7/4	木	4-6	(実) 清潔操作・ガウンテクニック	消化管外科学部門
	2024/7/8	月	4-6		
8	2024/7/11	木	1-3	(実) 採血	医療人育成・支援センター
	2024/7/11	木	4-6		
	2024/7/18	木	1-3		
9	2024/7/18	木	4-6	(実) 四肢脊柱の診察	整形外科科学講座
10	2024/7/22	月	1-6	(実) SP 医療面接演習	医療人育成・支援センター
11	2024/8/29	木	1-3	(実) バイタルサイン	腎臓高血圧内科学講座
12	2024/8/29	木	4-6	(実) 神経診察	脳神経内科学講座
13	2024/8/30	金	1-3	(実) 頭頸部診察	眼科学講座
14	2024/8/30	金	4-6	(実) 頭頸部診察	耳鼻咽喉科学講座
15	2024/9/2	月	1-3	(実) 持続的導尿	泌尿器科学講座

16	2024/9/2	月	4-6	(実) 腹部診察	消化器内科学講座
17	2024/9/3	火	1-6	(実) 救急	救急医療学講座
18	2024/9/4	水	1-3	(実) 胸部診察	循環器内科学講座
19	2024/9/4	水	4-6	(実) 胸部診察	呼吸器内科学講座
20	2024/9/5	木	1-6	(実) 自己学習	
	2024/9/6	金	1-6		
21	2024/9/17	火	2-3	(講) 英語による医療面接	医療人育成・支援センター
22	2024/9/20	金	1-6	(実) 英語による医療面接	
	2024/9/25	水	1-6		
	2024/9/26	木	1-6		
	2024/9/30	月	1-6		
23	2024/10/2	水	1-2	(講) 英語による医療面接総括	

【担当教員】令和6年4月以降別途通知する。

科目・コース（ユニット）名：医療入門1（医療と社会）【医学4】

英語名称：medical care and society

【担当責任者】緩和医療：佐藤薫（麻醉科学講座）、臨床倫理：福田俊章（総合科学教育研究センター：人文社会科学領域）

【開講年次】4年、【学期】前期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義（グループ・ディスカッションを含む）

【概要】

医療は人の社会的な営みという広い文脈の中に存在すると考えられる。しかし、今日は医療技術の進歩の側面を追い求めるあまり、患者・家族の個人的な精神性や社会性についてはおざなりになってきたと考えられる。日本においては病気を抱える患者・家族に対しての全人的ケアをになう緩和医療の広がりが国策の一つとなっているが、福島ではまだ浸透しているとは言いがたい状況である。「緩和医療」の授業では、医療にたずさわる前に一人の‘人’として、死について深く考え、そして医療者として、がん患者の症状コントロールやコミュニケーション技術を学ぶ場としたい。

さらに、医療者には日々の医療現場で、あるいは先端医療の現場で直面する倫理的諸問題に対処することも求められている。「臨床倫理」の授業では、患者および家族の立場を理解した上で日々の医療に従事する姿勢を受講生が学ぶことの出来る場としたい。

【学習目標】

緩和医療

- 1) 全人的な医療を理解し、説明ができる。
- 2) 緩和医療とはなにかを理解し、説明ができる。
- 3) 包括的ながん医療を理解し、説明ができる。
- 4) がん性疼痛の薬物療法とオピオイドについて理解し、説明することができる。
- 5) 悪い知らせを患者に伝える際のコミュニケーション技術について理解し、その要点を説明することができる。

臨床倫理

- 1) 臨床倫理に関する基本的事項を説明できる。
- 2) 先端医療をめぐる倫理的諸問題について説明できる。
- 3) 患者・家族の立場から、臨床倫理を考えることができる。
- 4) チーム医療の重要性について説明できる。
- 5) 研究倫理に関する基本的事項について説明できる。

【教科書】指定しない。

【参考書】

緩和医療

・「トワイクロス先生の緩和ケア」医学書院 2018年 Robert Twycross, Andrew Wilcock
(武田文和・的場元弘監訳)

「がん医療におけるコミュニケーション・スキル 悪い知らせをどう伝えるか」医学書院・
2007年

臨床倫理

・A. R. ジョンセンほか(赤林朗・大井玄監訳)『臨床倫理学 臨床医学における倫理的決定の
ための実践的アプローチ(第5版)』新興医学出版社・2006年

・G. E. ペンス(宮坂道夫・長岡成夫訳)『医療倫理 よりよい決定のための事例分析』みす
ず書房・2000年

・赤林朗編『入門・医療倫理 I (改訂版)』勁草書房・2017年

・樋口範雄編『ケース・スタディ 生命倫理と法(第2版)』有斐閣・2012年

【成績評価方法】

緩和医療

基本的には、出席と授業ごとの感想やレポートを提出していれば合格点とする。グループ
ワークが中心の授業もあり、その場合は他人の意見を共有しながら自身の意見もしっかり
のべることができることが最低限必要である。講義室にいても授業に参加しない、発言し
ない、他の生徒がグループディスカッションできない様な授業態度をとるものは落第点と
なる可能性がある。

臨床倫理

出席状況と授業参画態度(毎時間のコメントペーパーの提出と記載内容)に基づいて行う。
コメントペーパーは講師の先生のお話を踏まえた上で記載されているか、グループ・デ
ィスカッションを踏まえて記載されているかなどの観点から評価する。

出席については規程に基づき、原則として3分の2以上の出席を要する。

また、緩和医療と臨床倫理それぞれについて合格点を満たしていなければならない。

【学習上の注意事項】

【垂直的統合授業の実施内容】

生命倫理(1年生)、死生観の歴史(1年生)、薬害から学ぶ(1年生)

【水平的統合授業の実施内容】

医療と法(4年生)、臨床実習入門(4年生)

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

- ・ 哲学分野の講師を招き、死を意識することから生についてグループ・ディスカッションを通して深く探求していく。
- ・ 患者の立場の講師を招き、医療を患者の視点から考える場を受講生に提供する。

緩和医療

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2024/5/21	火	1	(講) 総論	佐藤 薫
2	2024/5/21	火	2	(講) がん性疼痛・呼吸困難	佐藤 薫
3	2024/5/28	火	1	(講) 在宅医療	橋本 孝太郎
4	2024/5/28	火	2	コミュニケーション技術 (ロールプレイ)	佐藤 薫
5	2024/6/4	火	1	死と生の希望について考える (グループ・ディスカッション)	竹之内裕文 内宮美知子
6	2024/6/4	火	2	同上	同上
7	2024/6/4	火	3	同上	同上
8	2024/6/11	火	1	精神腫瘍学	三浦 至
9	2024/6/11	火	2	家で家族を看取ること (ビデオ視聴)	高橋 まり
10	2024/6/11	火	3	家で家族を看取ること (質疑応答)	高橋 まり

【担当教員】

教員氏名	職	所属
竹ノ内裕文	教授	静岡大学創造科学技術大学院・農学部
内宮 美知子	ご遺族	
高橋 まり	ご遺族	
橋本 孝太郎	医師	ふくしま在宅緩和ケアクリニック
三浦 至	教授	福島県立医科大学神経精神医学講座
佐藤 薫	講師	福島県立医科大学麻酔科学講座

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

在宅医療、包括的緩和医療（緩和医療総論）、がん性疼痛などの症状コントロール、精神腫瘍学

臨床倫理

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2024/6/7	金	4	講義案内 (講) 臨床倫理入門①臨床倫理の基本概念	末永・福田
2	2024/6/7	金	5	(グループ・ワーク) 臨床倫理入門②4分割法の活用	末永
3	2024/6/7	金	6	(講) セカンド・オピニオン	佐治重衡
4	2024/6/14	金	4	(講) がん患者の支援	菅原 裕
5	2024/6/21	金	4	(講) 生殖補助医療をめぐる倫理問題①	野曾原誉枝
6	2024/6/21	金	5	(講) 生殖補助医療をめぐる倫理問題②	野曾原誉枝
7	2024/6/28	金	4	(講) 薬害被害者のお話を聞く① 【ZOOM 利用】	井上昌和 浅川身奈栄
8	2024/6/28	金	5	(講) 薬害被害者のお話を聞く② 【ZOOM 利用】	井上昌和 浅川身奈栄
9	2024/7/3	水	4	(講) 医師のプロフェッショナリズム 【ZOOM 利用】	尾藤誠司
10	2024/7/5	金	4	(講) 治験をめぐる倫理問題	稲野彰洋
11	2024/7/5	金	5	(講) 臨床の場から考える：日々の臨床問題	菅野耀介
12	2024/7/12	金	4	(グループ・ワーク) 若年性認知症の告知①	福田・末永
13	2024/7/12	金	5	(グループ・ワーク) 若年性認知症の告知②	福田・末永
14	2024/7/19	金	4	(講) 研究倫理入門：倫理審査委員会の役割	小早川雅男
15	2024/7/19	金	5	(グループ・ワーク) 模擬倫理審査	小早川・福田・末永

【担当教員】

教員氏名	職	所属
佐治重衡	教授	腫瘍内科学講座
菅原 裕	副主査	がん相談支援センター
野曾原誉枝	理事長	NPO法人Fine (ファイン)

井上昌和		全国薬害被害者団体連絡協議会
浅川身奈栄		全国薬害被害者団体連絡協議会
尾藤誠司	臨床研修科医長	東京医療センター
稲野彰洋	副センター長	医療研究推進センター・臨床研究センター
菅野耀介	所長	松島海岸診療所
小早川雅男	教授	臨床研究推進センター
末永恵子	講師	総合科学教育研究センター
福田俊章	准教授	総合科学教育研究センター

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

セカンド・オピニオン、医師のプロフェッショナリズム、日々の臨床問題、研究倫理入門、模擬倫理審査

科目・コース（ユニット）名：医療入門Ⅰ（プライマリ・ヘルス・ケアと地域医療）
英語名称：Primary Health Care and Community Medicine

【担当責任者】菅家智史

【連絡先】地域・家庭医療学講座（comfam@fmu.ac.jp）

【開講年次】4年，【学期】前期【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

地域医療の崩壊を防ぎ、地域住民のニーズに沿った質の高いプライマリ・ヘルス・ケアを実践するには、家庭医療学の原理を十分に学んで、それを実際に地域で展開していくことが必須です。このユニットでは、2018年度から「総合診療専門医」という名称で国を挙げて養成されることになったプライマリ・ヘルス・ケアの専門医が取り組む新しい医療について、系統的に学ぶ機会を提供しています。将来医学医療のどの分野へ進む医学生にとっても、家庭医療学を理解することは役に立ちます。

【学習目標】

- ① 社会構造（家族、コミュニティ、地域社会、国際化）と健康・疾病との関係（健康の社会的決定要因(social determinant of health)）を概説できる。
- ② 地域社会（離島・へき地を含む）における医療の状況、医師の偏在（地域、診療科及び臨床・非臨床）の現状を概説できる。
- ③ 地域包括ケアシステム概念を理解し、地域における保健（母子保健、学校保健、成人・高齢者保健、地域保健、精神保健）・医療・福祉・介護の分野間及び多職種間（行政を含む）の連携の必要性を説明できる。
- ④ かかりつけ医等の役割や地域医療の基盤となるプライマリ・ケアの必要性を理解し、実践に必要な能力を獲得する。
- ⑤ 地域における救急医療、在宅医療及び離島・へき地医療の体制を説明できる。
- ⑥ 医療保険、介護保険及び公費医療を説明できる。
- ⑦ 高齢者福祉と高齢者医療の特徴を説明できる。
- ⑧ 医療従事者の資格免許、現状と業務範囲、職種間連携を説明できる。
- ⑨ 健康行動や行動変容を行う動機付けを概説できる。
- ⑩ 行動療法を説明できる。
- ⑪ 認知行動療法を説明できる。
- ⑫ 心理教育を説明できる。
- ⑬ 生活習慣病における患者支援（自律性支援）や保健指導を概説できる。
- ⑭ 高齢者総合機能評価(comprehensive geriatric assessment <CGA>)を実施できる。
- ⑮ 加齢に伴う薬物動態の変化、高齢者に対する薬物療法の注意点を説明でき、ポリファーマシーの是正等適切な介入が実施できる。
- ⑯ 高齢者の退院支援と介護保険制度を説明できる。
- ⑰ 在宅医療の在り方、今後の必要性と課題を概説できる。
- ⑱ 在宅医療における多職種連携の重要性を説明できる。
- ⑲ 褥瘡の予防、評価、処置・治療及びチーム医療の重要性を説明できる。
- ⑳ 在宅における人生の最終段階における医療、看取りの在り方と課題を概説できる。
- ㉑ 介護の定義と種類を説明できる。
- ㉒ 日常生活動作<ADL>（排泄、摂食、入浴等）に応じた介護と環境整備の要点を概説できる。
- ㉓ 地域包括ケアシステムと介護保険制度、障害者総合支援法等の医療保健福祉制度を概説できる。

【教科書】

- 1.プライマリ・ケアの理論と実践（日本医事新報社）

【参考書】

- 1.マクウィニー家庭医療学 上巻・下巻（ぱーそん書房）
- 2.医療大転換-日本のプライマリ・ケア革命-（ちくま新書）
- 3.患者中心の医療の方法 原著第3版（羊土社）
- 4.家族志向のプライマリ・ケア（丸善出版）
- 5.診療ガイドラインが教えてくれないこともある（南山堂）
- 6.スタンダード家庭医療マニュアル（永井書店）

【成績評価方法】

出席については規程に基づく。

1 コマにつき出席＋課題（小テスト）で10点満点（出席と課題の配点は各担当教員による）

14コマ×10点＝140点満点となり、6割（84点）以上で合格とする。

詳細については初回講義の冒頭で教員より説明する。

【学習上の注意事項】

特記なし。

【垂直的統合授業の実施内容】

「へき地医療とキャリア形成」の授業では、非常勤講師が臨床医学的側面と社会医学的側面を交えた統合的授業を行う。

【水平的統合授業の実施内容】

「地域包括ケアシステムと家庭医療」の授業では、生活相談員を非常勤講師としてお迎えし、他職種から視点を交えた統合的授業を行う。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

「世界の家庭医療、プライマリ・ヘルス・ケア、医療大転換」の授業において、当講座が取り組んでいる研究に触れる。特に、ここ数年で学会と医学雑誌に発表された多彩な研究（医学生のアイデンティティ形成、医学教育での家庭医療実習の重要性、ジェネラリストとスペシャリスト、生活習慣病への行動科学的介入、プライマリ・ヘルス・ケア政策導入の国際比較、メンタルヘルスとプライマリ・ヘルス・ケア連携の国際共同プロジェクトなど）を紹介しながら、プライマリ・ヘルス・ケアの専門性の魅力を伝える。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2024/5/23	木	1	(講) 家庭医療学、総合診療専門医	菅家智史
2	2024/5/23	木	2	(講) 患者中心の医療の方法	豊田喜弘
3	2024/5/23	木	3	(講) 医師-患者のコミュニケーション	豊田喜弘
4	2024/5/24	金	1	(講) 複数の健康問題と包括的アプローチ	中村光輝
5	2024/5/30	木	1	(講) 予防・健康増進・行動変容	遠藤芽依
6	2024/5/30	木	2	(講) 医療保険と介護保険	遠藤芽依
7	2024/5/30	木	3	(講) 地域包括ケアシステムと家庭医療	遠藤芽依
8	2024/5/31	金	1	(講) 家族志向ケアと在宅医療	中村光輝
9	2024/6/6	木	1	(講) 高齢者ケアと人生の最終段階のケア	菅家智史
10	2024/6/6	木	2	(講) へき地医療とキャリア形成	森冬人
11	2024/6/6	木	3	(講) 世界の家庭医療、プライマリ・ヘルス・ケア、医療大転換	葛西龍樹
12	2024/6/13	木	1	(講) 褥瘡の予防、評価、治療とチーム医療	遠藤芽依
13	2024/6/13	木	2	(講) 家庭医の外来診療	豊田喜弘
14	2024/6/13	木	3	(講) 健康の社会的決定要因 (social determinant of health)	豊田喜弘

【担当教員】

教員氏名	職	所属
菅家智史	講師	地域・家庭医療学講座/総合診療医センター
中村光輝	助教	医療人育成・支援センター
豊田喜弘	助手	地域・家庭医療学講座
遠藤芽依	助手	地域・家庭医療学講座
葛西龍樹	名誉教授	地域・家庭医療学講座
森冬人	非常勤講師	喜多方市地域・家庭医療センター
早坂史恵	非常勤講師	介護付き有料老人ホーム シャローム

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

全て。

科目・コース（ユニット）名：行動科学V：社会的コミュニケーション
英語名称：Behavioral Science V: Societal communication

【担当責任者】田巻倫明

【連絡先】田巻倫明：tamakit@fmu.ac.jp

竹林由武：ytake2@fmu.ac.jp

【開講年次】4年, 【学期】前期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義

【概要】

臨床現場における患者や家族とのコミュニケーションのみならず、地域保健の観点から、医療者は社会やコミュニティにおけるステークホルダーとの円滑なコミュニケーション能力が求められる。本講義では、そのような社会的コミュニケーションの基礎を学び、人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理、多様性の理解といったコミュニケーション上に必要な要素について学ぶ。

【学習目標】

- 1) 社会的コミュニケーションの基礎を説明できる
- 2) 人の心理・認知・行動、ヘルスリテラシー、信頼、倫理、多様性の理解といったコミュニケーション上に必要な要素について説明できる。

【教科書】

授業中、必要に応じて担当の講師から紹介がある。

【参考書】

以下を参考図書とする。

1. 中谷内一也編：リスクの社会心理学 有斐閣
2. National Research Council 編、林裕造、関沢純監訳：リスクコミュニケーション 前進への提言

【成績評価方法】

成績評価は①出席状況、②授業態度、③レポートに基づき行う。①、②は各講義後のレスポンスカードの提出および内容で評価する。原則、出席は必須である。必要に応じてテストを行う可能性もある。

【学習上の注意事項】特記事項なし

【垂直的統合授業の実施内容】

一連の行動科学の講義（行動科学I～V）の一つに位置付けられ、他の行動科学の講義で学んだ内容が本講義の理解に結びつき、それらが本講義によってさらに深まると期待される。

【水平的統合授業の実施内容】

リスクコミュニケーションについて、放射線医療、放射線防護、地域保健、臨床心理、社会科学、医療人類学などの多様な分野にまたがる授業内容である。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

本授業は、東日本大震災及び福島第一原発事故後に求められたリスクコミュニケーションに関する内容を含む。とりわけ、臨床的視点に加えて、社会的な対話のあり方について学習する授業となる。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	2024/6/6	木	6	(講)行動科学の重要性 1	竹林由武
2	2024/6/6	木	7	(講)行動科学の重要性 2 (講)行動科学 IV:序論・概要	竹林由武 田巻倫明
3	2024/6/14	金	2	(講)医療人類学：医療と多様性	道信良子
4	2024/6/14	金	3	(講)医療人類学：医療と多様性	道信良子
5	2024/6/21	金	2	(講)ヘルスリテラシー	後藤あや
6	2024/6/21	金	3	(講)ヘルスリテラシー	後藤あや
7	2024/6/26	水	4	(講)心理療法と対話スキル	竹林由武
8	2024/6/26	水	5	(講)心理療法と対話スキル	竹林由武
9	2024/6/28	金	2	(講)地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝
10	2024/6/28	金	3	(講)地域医療、科学とコミュニケーション	越智小枝
11	2024/7/5	金	2	(講)放射線リスクコミュニケーション	田巻倫明
12	2024/7/5	金	3	(講)放射線リスクコミュニケーション、全体のまとめ	田巻倫明

【担当教員】

教員氏名	職	所属
田巻倫明	教授	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
竹林由武	講師	福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座
後藤あや	教授	福島県立医科大学 総合科学教育研究センター
越智小枝	准教授	東京慈恵会医科大学 臨床検査医学講座
道信良子	教授	福井県立大学 看護福祉学部

科目・コース（ユニット）名： 男女共同参画 医学4
英語名称：Gender Equality

【担当責任者】小宮 ひろみ

【連絡先】hiromiy@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】前期 【必修／選択】必須

【授業形態】講義／演習

【概要】医師として生涯を通じたキャリア形成は重要な課題である。本講義では、男女共同参画やダイバーシティという観点から、医師として生涯にわたるキャリア形成のあり方を考える。また、卒後におこりうるライフイベントを想像し、より身近なこととして捉えられるようにグループ演習や先輩医師の体験談も交え、講義をすすめていく。

【学習目標】

《学習総合》

- 1) 医師として男女共同参画・ダイバーシティの意義を考えることができる。
- 2) ワーク・ライフ・バランスについて説明できる。
- 3) 医師として生涯学習することが重要であることを理解できる。

《グループ学習》

- 1) 医師のキャリア形成の中でおこりうるライフイベントを多面的に想像できる。
- 2) 他者の考えを理解し、柔軟に考えることができる。

【教科書】指定なし

【参考書】指定なし

【成績評価方法】

成績評価はキャリア未来年表提出で行う。

出席はやむを得ない事情がない限り必須である。

【学習上の注意事項】学生は10名前後のグループとなり、指定箇所にて行う。シナリオに対して、グループに分かれ、学生が主体的に討論を行う。まず、グループで討議し、選択肢及びその理由を記載した後、全体の発表会に続き、総合討論・総括を行う。

シナリオ作成者：小宮ひろみ 蓮沼直子（広島大学医学部附属医学教育センター）

行動目標：卒後のライフイベントをシュミレーションすることにより、その中で自らのキャリアをどのように形成していくべきか考えることができる。

【垂直的統合授業の実施内容】医学部1年生の「男女共同参画」授業においては、男女共同参画社会・ダイバーシティの意味と医学部卒業後のキャリアパスを学ぶ。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名	備考
1	2024/7/3	水	5	(演) シナリオを用いた グループ演習	小宮ひろみ 蓮沼直子	
2	2024/7/3	水	6	(講) 先輩医師の体験談 を聞く	小宮ひろみ 蓮沼直子	
3	2024/7/3	水	7	(講) 男女共同参画・ダイ バーシティを考える	小宮ひろみ 蓮沼直子	

【担当教員】

教員氏名	職	所属	連絡先
小宮ひろみ	教授	福島県立医科大学 産科婦人科学講座	
蓮沼直子	教授	広島大学医学部附属医学教育センター	

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

科目・コース（ユニット）名：医療入門2
英語名称：Introduction to Medical Practice 2

【担当責任者】伊関憲（救急医療学講座）、亀岡弥生（医療人育成・支援センター）

【連絡先】igakukyo@fmu.ac.jp

【開講年次】4年, 【学期】後期, 【必修／選択】必須,

【授業形態】講義・演習

【概要】GBT と OSCE により基本的医学知識と技能が一定水準に達していると認定されてから、student doctor としての臨床実習（BSL）が始まる。しかし、予測不可能な臨床現場で診療に参加するためには、更に必要なものがある。医療入門2は、どの科に行っても必要とされる基本スキル、安全に医療を行うためのルール、研修後まで見据えた心構えを最終確認するための集中授業である。

【学習目標】

1. 目指す医師像を考え、それに向けた BSL の目標を持つ。
2. 電子カルテの適切な場所に診療情報を入力できる
3. 「医療安全」「院内感染防止対策」「医療情報の取り扱い」の遵守事項を説明できる。
4. 基本的な検査データを系統的に読んで、陰性所見、陽性所見を説明することができる。
5. 「地域医療における医療機関の役割」「輸液の基本」を概説できる。
6. データを基に病態と診断の推論を簡潔にプレゼンテーションできる。
7. 相手に行動変容を促す、または、悪い知らせを伝える際に留意すべきことを説明できる。
8. 症例の抱える問題点を、医療倫理の四原則における価値の対立の観点から説明し、考察することができる

【教科書】

指定しない。

【参考書】

- ・「誰も教えてくれなかった診断学」野口善令、福原俊一著 医学書院
- ・「がん医療におけるコミュニケーション・スキル」内富庸介 藤森麻衣子著 医学書院
- ・「プレゼンテーションの具体的なポイントとコツ」天理よろづ相談所病院レジデント著 三輪書店

【成績評価方法】

全授業の3分の2以上の出席を以て評価の対象とする。

評価は、授業への出席、演習の成果・態度を総合して判断する。

【学習上の注意事項】

BSL で必要となる規範と臨床技能を総点検する授業であることを自覚して臨んでほしい。

【授業スケジュール】 時間割及び担当教員の詳細は令和 5 年 4 月以降に通知する。

授業タイトル、必要コマ数、担当予定教員を示す。

回数(回)	内 容
1	(講) BSL で留意すべき医療情報の取り扱いについて
1	(講) 電子カルテの操作法
6 (1回/人)	(演) 電子カルテ演習
2	(講) 臨床実習の学習リソースについて
1	(講) BSL と post-CC OSCE
1	(講) 会津医療センターBSL オリエンテーション
1	(講) 医療安全 1
1	(講) 医療安全 2
1	(講) 保険診療について
1	(講) 院内感染対策
2	(演) 実習を通して学ぶ院内感染防止対策の実際
4	(講) 症例のプレゼンテーション
1	(講) 医療面接アドバンス① (行動変容を促す)
1	(講) 医療面接アドバンス② (悪い知らせを伝える)
2	(講) Evidence-based medicine (EBM)
1	(講) 輸液の基本
1	(講) 胸部レントゲン読影の基本
1	(講) 腹部画像診断
1	(講) 神経画像診断
1	(講) 心電図の読み方
1	(講) 血液ガスと乳酸値
3	(講) (演) 医療倫理
1	(講) 地域医療における医療機関の役割
1	(講) 福島県の医療の現状/卒後研修と専門研修医
1	(講) 研修医から見た BSL の過ごし方
4	(講) キャリアパス

【担当教員】

令和 5 年 4 月以降に別途通知する。

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

科目・コース（ユニット）名： BSL 前漢方実習【医学4】
英語名称：Kampo medicine practice before Bed Side Learning

【担当責任者】 田原英一（漢方医学）

分野担当責任者（漢方医学） 湯液：田原英一 鍼灸：鈴木雅雄 生薬：秋葉秀一郎

【連絡先】 湯液：田原英一 e-tahara@fmu.ac.jp

鍼灸：鈴木雅雄 masuzuki@fmu.ac.jp

【開講年次】 4年, 【学期】 後期【必修／選択】 必修

【授業形態】 実習

【概要】

我が国の臨床医は80-90%が漢方製剤の処方経験があるとされ、また鍼灸を臨床現場で活用している医師や施設も多い。漢方（湯液と鍼灸）における具体的な診察と治療の方法、湯液で用いられる生薬の基礎、鍼灸治療のメカニズムについて学び、その知識や技量を臨床実習さらに実地臨床で活かせる基盤を作る。

【学習目標】

1. 六病位における主要な方剤について、主に診察所見を中心とした診断で、証に基づいた適応を理解している。
2. 気血水の病態に対応する主要な方剤について、主に診察所見を中心とした診断で、証に基づいた適応を理解している。
3. 鍼灸診療において証に基づいた治療とメカニズムについて理解している。
4. 湯液治療で用いる生薬を中心とした学問である本草学について、具体的な例を挙げて説明できる。
5. 主な生薬の作用と生薬の性状、副作用・使用上特に注意を要する点について理解している。

【教科書】

1. はじめての漢方診療 ノート（第2版）、三瀦忠道、医学書院
湯液臨床の要点を収載。臨床実習でも使用し、卒前から臨床実地まで活用できる。
2. 基本がわかる漢方医学講義、日本漢方医学教育協議会、羊土社
日本の全医学部の漢方担当教員による標準教科書。湯液と鍼灸の要点を記載。

【参考書】

1. はじめての漢方診療 十五話（第2版）、医学書院
「はじめての漢方診療ノート（第2版）」の姉妹版で、丁寧な解説が書いてある。
2. 学生のための漢方医学テキスト、日本東洋医学会
3. 症例から学ぶ和漢診療学、寺澤捷年、医学書院
4. 漢方概論、藤平健・小倉重成、創元社

5. 漢方 294 処方 生薬解説、じほう

主要な漢方処方を構成する生薬について、成分や漢方医学的位置づけを解説。

6. 経絡・ツボの教科書、新星出版社

7. 鍼灸臨床最新科学 メカニズムとエビデンス、 医歯薬出版株式会社

【成績評価方法】

- ① 規定に基づき、原則として5分の4以上の出席を評価資格条件とする。
- ② レポート：学習目標に掲げた項目について、実習中のレポートを用いてその習得度を
確認する。

- ・ 主要な漢方方剤について、四診所見に基づいて証を判定し、方剤を選択できる。
- ・ 鍼灸治療に必要な身体診察である舌診について概要を説明できる。
- ・ 講義内容に沿った証を用いた鍼灸治療の方法について選択できる。
- ・ 刺鍼の基本的な手技が説明できる。
- ・ 主な漢方薬・生薬の形態や作用について、漢方と現代薬理学の両面から説明できる。
- ・ 漢方薬・生薬の副作用や特に注意を要する点を理解し、危険回避の方策を説明できる。

【垂直的統合授業の実施内容】

3班に分かれてそれぞれ、湯液、生薬、鍼灸の実習を1時限ずつ行う。湯液実習はモデル（学生）を診察（四診）し、提出用紙に所見と証（適応方剤）を記載する。各班の話し合いで2名が交代でモデルとなる。生薬は開示されていない未知の処方（複数の生薬から構成）をサンプルとの照合により、生薬を同定し、処方名を解明する。鍼灸実習では自身にふさわしい経穴の同定や、実際の刺激を体験的に学ぶ。所見をレポートに記載、提出する。

【水平的統合授業の実施内容】

湯液診療では内科学（総合）や、薬理学、臨床薬理学にも関連して説明する。

鍼灸では経穴（けいけつ）部位の解剖と物理刺激に対する神経生理学的働きを理解し、鍼灸刺激が中枢ではどのような反応を起こしているか説明を行う。また、この刺激の働きが臨床的にどのような意義を持っているか説明をする。

【本学独自の、あるいは先端的な研究要素のある授業の実施内容】

漢方医学独特の証に基づき薬方を選択する方法としての手技を学び、臨床応用の基礎を作る。

鍼灸診療の理論と実技を取り入れ、臨床に応用できる基礎を身につける。

【授業スケジュール】

回数	年/月/日	曜日	時限	内 容	担当教員名
1	R6/10/2	水	3	(講) 実習にあたって 湯液、生薬、鍼灸実習のオリエンテーション	田原英一他
2	R6/10/2	水	4	(実) 湯液実習 四診の実際と処方検討	田原英一他
3	R6/10/2	水	5	(実) 生薬実習 生薬の鑑別と処方検討	秋葉秀一郎 他
4	R6/10/2	水	6	(実) 鍼灸実習 経穴の鑑別と鍼灸の実技	鈴木雅雄他

実際には3班に分かれて各時限ごとにローテーションで実習を行う。

【担当教員】

教員氏名	職	所属
田原英一	教授	会津医療センター漢方医学講座
畝田一司	講師	会津医療センター漢方医学講座
秋葉秀一郎	助教	会津医療センター漢方医学講座
鈴木雅雄	教授	会津医療センター漢方医学講座
加用拓己	助手	会津医療センター漢方医学講座
三猪忠道	特任教授	会津医療センター漢方医学講座
小宮ひろみ	教授	附属病院性差医療センター
佐橋佳郎	講座等研究員	会津医療センター漢方医学講座
二瓶恵子	副部長	会津医療センター附属病院薬剤部
津田恭輔	講座等研究員	会津医療センター漢方医学講座
宮田紫織里	講座等研究員	会津医療センター漢方医学講座
山田雄介	講座等研究員	会津医療センター漢方医学講座
佐藤公紀	医専部部长	株式会社栃本天海堂
西谷真理	医専部	株式会社栃本天海堂
中沢良平	院長	一寸法師ハリ治療院
太田友理香	鍼灸師	一寸法師ハリ治療院

【医師として実務経験のある教員による授業科目】

湯液実習は医師が担当、生薬実習は漢方薬剤師、鍼灸実習は鍼灸師（実務経験者）が担当する。